

## 令和7年度 福井県母子寡婦福祉指導者研究集会を開催！

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 日 時 | 令和7年6月22日（日）12時40分～15時30分 |
| 会 場 | 越前市 市民プラザたけふ              |
| 参加者 | 81名                       |

この研究集会は、ひとり親家庭や寡婦の自立と子どもの健全な育成、さらに福祉の向上を目指し毎年開催しており、今年も県健康福祉部児童家庭課 藤原課長を来賓としてお迎えし、「母に幸あれ」の斉唱、岡崎会長のあいさつで開会しました。



開会式に続いて県健康福祉部児童家庭課 松本主事より児童扶養手当関係、第5次福井県ひとり親家庭自立支援計画について、そして子育てをしている親への就業・生活支援についてなどの行政説明がありました。



その後分科会に分かれ活発に意見交換が行われました。第1分科会の母子・父子部では「万が一のとき、助けてくれる人がいますか？」というテーマでした。近くに頼れる人をつくるためには、地域交流が大切です。困ったら遠慮せずに助けを求めることが重要です。地域の民生委員・福祉委員や母子寡婦福祉連合会会員などともつながりをもってほしいとの意見がでました。

第2分科会の若年寡婦部では「万が一のとき、何ができますか？」というテーマでした。原発事故が起きて道路のゲートが下りた場合どうすればよいのか。若狭湾は津波がきたら大変ではないか。能登のような大きな地震が起きた場合どうするか。災害時のシミュレーションが大切です。よく言われていることですが、災害に備えて準備物を用意しておくことが大

切ですという意見が出ました。

第3分科会の寡婦部では「万が一のとき、どこまでできますか？」というテーマでした。災害が起きたときの対応で骨折などの怪我をしないように注意する必要があります。携帯電話は必需品です。近所同士助け合う必要があるが、そう思っているにもかかわらず心配です。連絡がつかない場合、いろいろ想定して心配してあげることが大切です。民生委員と意思疎通を図っておくことが重要という意見が出ました。



各分科会で議論した内容は全体会で報告され、閉会式では越前市母子寡婦福祉連合会母子部長の決議文朗読によって要望事項、申し合わせ事項が決議されました。

最後に「生き抜く白百合」斉唱、笛吹副会長のことばで閉会しました。

